

山岳古道調査 「佐渡・金北山～檀特山～金剛山の三山駆け」

佐渡島の最高峰、金北山（1,171m）、金剛山と檀特山を合わせて「佐渡三山」として、昭和初期まで盛んに島民が三山駆けを行っていた過去があります。この、佐渡の三山駆けを行うことで、熊野三山と同じ修行ができると人々に考えられていたようです。今回、古道調査の一環として、佐渡三山の縦走を行いました。

日 時：2022 年 8 月 27 日（土）～28 日（日）

メンバー：藤井 与嗣明、藍原 重雄、伊豆野 純也、佐藤 博、遠藤 俊一、井口 礼子、渡辺 茂、田邊 信行、佐久間 雅義、川島 万里子、江口 健、松井 潤次、松野 敬（13 名）

8/27（土）：新潟港カーフェリー6:00 - 佐渡汽船両津港 8:30 - 栗ヶ沢登山口 9:26 - 神子岩 11:29 - 金北山 13:09 - 真砂の峰 15:33 - マトネ 17:02 - ドンデン山荘 18:15（泊）

初日は、新潟からの参加メンバーのカーフェリー到着に合わせて、両津港で佐渡メンバーと合流。一般のタクシーとジャンボタクシーに分乗し、登山口まで向かいました。

なお、宿泊荷物は、車で行けるドンデン山荘まで一足先に運んでもらうことに。荷物を軽くして、タクシーに乗ることができました。登山口に到着すると、メンバーの自己紹介を行って、スタート。この日は気温が 20 度後半で日中曇り、夕方から雨の予報だったので、歩き出しはとても気持ち良かったです。



集合～登山口へ



栗が沢登山口より入山



ブナの巨木

しばらく樹林帯を歩き、途中見事なブナ林を抜けると、一気に景色が開ける^{みこいわ}神子岩に到着します。

この時は、雲もまばらで真野湾から両津湾まで見渡せる絶景を見ながら、昼食を取りました。



ツチアケビ



カワラナデシコ



真野湾を望む

再スタート後、また樹林帯に入り、しばらく登りが続くと金北山に到着。さらに眺めは良くなり、国仲平野が一望できます。全員で記念撮影をして、一服。



しかし、まだまだ先は長いです。少しガスも出てきたので、早めに出発することにしました。しばらく樹林帯を歩き、途中あやめ池や鏡池などの池を超えると稜線に出ます。



あやめ池



鏡池



役の行者

役の行者では、藤井様の詳細な講義をお聞かせいただきました。 詳細は本部の HP へ掲載予定！

そして、天狗の休場と名付けられた場所で小休止をしていると、いかにもといった雨雲が我々の背後から迫って来ました。案の定、歩き始めてからすぐ雨が降り始め、慌てて林に入ったところで全員雨具を装着。稜線ということもあり、雨に加え風も強くなってきて、しばらくがまん歩きの時間帯となりました。



その後、真砂の峰やマトネ等のピークを超えるとだいぶ雨風も弱まり、歩きやすくなりましたが、厚い雲に覆われているため、空が暗くなってきました。登山道は一本道で迷うような箇所はありませんが、できればヘッドランプを装着する前に山荘に着きたいところ。自然と足が早まりました。



最終的に、日没前には山荘に到着。無事に1日目の行程を終えました。

ドンデン山荘は登山客だけでなく、前述のように車でも来ることができるため、一般の観光客が多く訪れます。夕食がビストロディナーだったり、大浴場に入れたり、至れり尽くせり。外の景色を見なければ山荘にいることを忘れそうです。結局、この日30人ほどいた宿泊者の中で、登山客は我々だけのようでした。夕食後は大部屋でしばし宴の時間。当日の疲れを癒やし翌日の活力を養いました。

8/28 (日)：ドンデン山荘 7:15 – 芝尻山 8:16 – 和木山 10:39 – 檀特山 11:02 – 金剛山 12:13-

白瀬登山口 14:23 – 佐渡汽船両津港 16:05 – カーフェリー新潟港 18:35

雨は明け方まで降っていましたが、山荘を出発する頃には止み、スパッツのみ装着して2日目はスタート。少し肌寒さはありませんでしたが、歩いているうちにちょうど良い加減となりました。雲も次第に取れていき、前半は清々しい状況で稜線歩きができました。



後半は樹林帯の中を歩きましたが、前日に比べ茂みが多く、道がわかりづらくなっている場所が所々ありました。まさに、古道といった状況でしたが、分岐ではしっかりと看板が出ているので、迷いそうな箇所はほとんどありませんでした。檀特山への最後の道は、藪漕ぎをして進まなくてはなりません。

多くの人が登る金北山と違って、知る人しか訪れない場所だということがわかります。



山頂に到着しても、あるのは三角点のみで、看板も眺望もありません。三山駆けが行われていた場所としては、少し寂しい気持ちになりました。ぜひ、もう一度整備されて欲しいと願うばかりです。

そして、檀特山からは来た道を少し戻り、金剛山に向かいます。

カーフェリーの時間もあるので、少しペースを上げて進みました。そして、金剛山の山頂手前からは、蟻塚がたくさん出現します。登山道脇にも、アリに注意！の看板が。実際、ものすごい大量の蟻が現れて、メンバーの足を登ってきます。何とか振り払いながら進みますが、たまにチクッと噛まれることも。それでも、金剛山の山頂には、ほぼ予定通りに到着でき、360度の眺望がきく場所で楽しく昼食をいただきました。左手に見えるのが蟻塚です。一昨年より増えました。 ツリガネニンジン



この頃には、天気も晴れて、青空が見えるようになり、無事に三山踏破できた我々を祝福してくれているようでした。最後の記念写真を撮り、下山開始。下りは登り以上に、途中巨大な蟻塚が現れ、目を丸くしましたが、足を止めると蟻が身体を上ってくるので、休憩を少なめにして歩き続けました。最終的に今回のゴールである白瀬登山口には予定よりも早く到着でき、予約していた船で全員無事に帰途につくことができました。



クサボタン



ソウシシヨウニンジン



ミヤマコゴメグサ



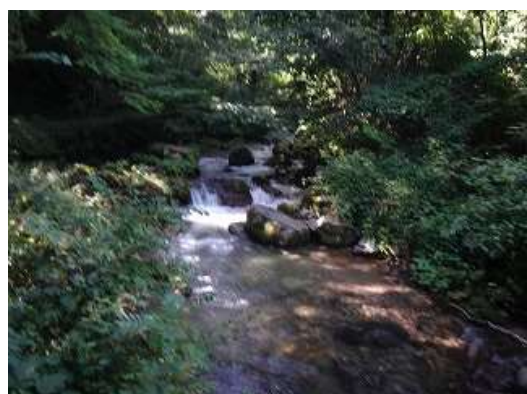
ミヤコグサ



イブキジャコウソウ



マルバキンレイカの群落



白瀬登山口の手前の沢筋



佐渡汽船上から佐渡に沈んだ夕陽

なお、2日間の活動合計時間は、16時間4分、走行距離28kmで、昔の方が盛んに三山駆けを行っていたことには、頭が下がります。さらに、佐渡三山について、私も勉強してみたくになりました。

記 松野 敬